

環境保全型農業の問題点と今後の支援方向

[研究のねらい]

和歌山県では、安全・安心な農産物の供給や環境負荷軽減のために環境保全型農業（エコ農業）を推進しており、和歌山県エコファーマー認定制度や特別栽培農産物の認証制度を設けています。

エコ農業は慣行栽培に比べて化学農薬や化学肥料の使用を制限することから、取組農家の生産・経営面において様々な問題点が生じています。ここでは、取組農家に対するアンケート調査からエコファーマーに取組むうえでの問題点と推進する方向について分析します。

[研究の成果]

- ①エコファーマーに取組むうえで、「労力がかかる」、「病虫害防除が難しい」、「コストがかかる」などが生産・経営上の問題となっています（図1）。また、販売上の問題は「販路の確保が困難」（23.3%）、「生産物のPRの仕方がわからない」（15.6%）などでした（図表省略）。
- ②エコファーマーを推進するうえで地域で強化すべき取組として、「営農指導」、「販路対策」、「研究会の開催」、「栽培技術研修会の開催」、「施設整備・資材への補助」などがあげられました（図2）。
- ③取組農家は化学農薬・化学肥料の代替技術の導入による負担の増加が大きく、関係機関への営農指導や研究会の開催等の支援を強く求めています。また、販路対策の支援も必要です。

[成果の活用面・留意点]

- ①環境保全型農業を推進する上での基礎資料として活用できます。

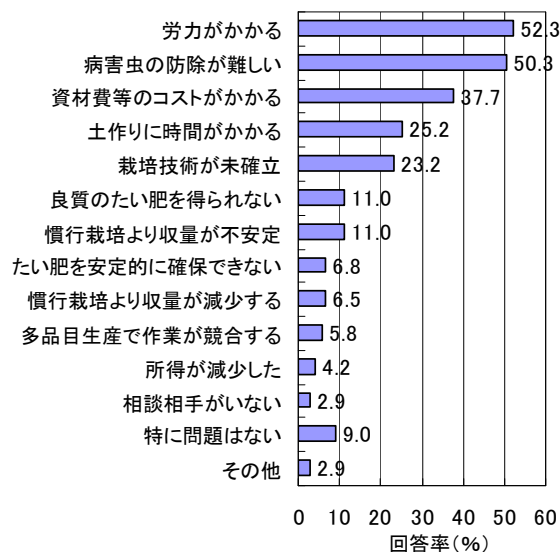


図1 エコファーマーの生産・経営上の問題点

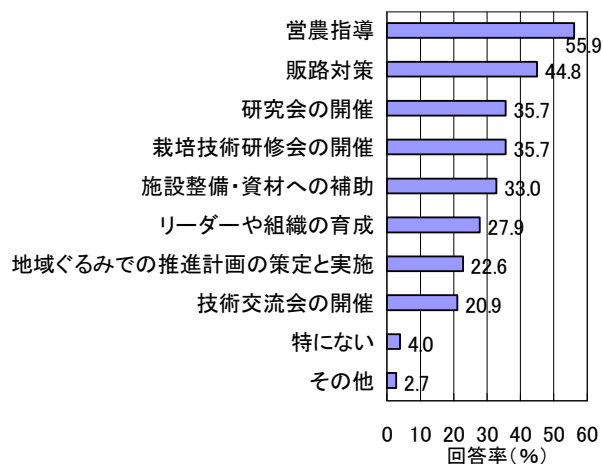


図2 地域で強化する取組

資料:「環境保全型農業に関するアンケート」(2005年8,9月実施)
 調査対象はエコファーマー・特別栽培の認定を受けた農家920戸とした。
 有効回答数は356(うちエコファーマー314)であった。

実施期間：平成17～18年度
 担当者：熊本昌平・辻 和良